

修士論文

システム情報科学専攻修士論文スタイルファイルの使い方

山下 裕

2007 年 12 月

北海道大学 大学院情報科学研究科
システム情報科学専攻

本論文は北海道大学大学院情報科学研究科に
修士(情報科学) 授与の要件として提出した修士論文である。

山下 裕

審査委員：	主査	A 教授
	副査	B 教授
		C 教授
		D 助教授

システム情報科学専攻修士論文スタイルファイルの使い方*

山下 裕

概要

これは、システム情報科学専攻における修士論文用の \LaTeX スタイルファイルの使い方を説明したものである。

詳しくはこのサンプルのソースを見てほしい。

キーワード: \LaTeX , 修士論文, スタイルファイル

*北海道大学 大学院情報科学研究科 システム情報科学専攻 修士論文, SSI-MT000000, 2007 年 12 月 6 日.

Usage of the style file for master's thesis of Division of Systems Science and Informatics[†]

Yuh Yamashita

Abstract

This document describes the usage of the style file for master's thesis of Division of Systems Science and Informatics.

Read the source file of this document to understand the exact usage.

Keywords: L^AT_EX, master's thesis, style file

[†]Master's Thesis, Division of Systems Science and Informatics, Graduate School of Information Science and Technology, Hokkaido University, SSI-MT000000, December 6, 2007.

目次

第1章 はじめに	1
第2章 設定部の書き方	3
2.1 一行目	3
2.2 プリアンブル	3
2.2.1 修士論文・博士論文の指定	4
2.2.2 論文タイトル	4
2.2.3 著者名	4
2.2.4 概要	5
2.2.5 学生番号	5
2.2.6 主査・副査	5
2.2.7 論文を最終提出した日付	5
2.2.8 その他	5
2.3 本文の始め	5
第3章 その他	7
謝辞	9
参考文献	11
付録 A Appendix について	13

図 目 次

3.1 図を取り込んだ例	7
------------------------	---

表 目 次

2.1	プリアンブルのコマンド一覧	4
-----	-------------------------	---

第1章 はじめに

これは、システム情報科学専攻における修士論文用の \LaTeX スタイルファイルの使い方を説明したものである。未完成なところもあるが、将来的にはアブストラクトの `html` ファイルを自動生成するようにしたいと思っている。

このスタイルファイルは `jbook.cls` を元にしたものであり、両面印刷することを前提としている。そのため、必ず章は奇数ページから始まる。また、簡易製本機などの使用を前提としており、閉じる側のマージンが開く側のマージンよりも小さく取ってある。穴を開けて閉じる場合などは、`\oddsidemargin`, `\evensidemargin` などを調整して欲しい。

第2章 設定部の書き方

2.1 一行目

1 行目は、

```
\documentclass{ssimthesis}
```

と書く。jbook.cls のオプションのうち相当数を無効にしてある。英語論文の場合は、

```
\documentclass[english]{ssimthesis}
```

と書くが、この場合でも p_LA_TE_X が必要である。したがって、オプション “english” を有効にした場合も、2 バイト系の文字は有効である。2004 年度のフォーマットは 10pt が基本であったが、2005 年度以降は 11pt が基本の文字の大きさである。2004 年度と同じフォーマットで出したい場合はオプション 10pt をつけるとよい。

2.2 プリアンブル

以下は、このファイルのプリアンブルの一部を抜き出したものである。

```
\title{システム情報科学専攻修士論文スタイルファイルの使い方}
```

```
\etitle{Usage of the style file for master's thesis  
of Division of Systems Science and Informatics}
```

```
\author{山下 裕}
```

```
\eauthor{Yuh Yamashita}
```

```
\jabstract{これは、システム情報科学専攻における修士論文用の  
\LaTeX スタイルファイルの使い方を説明したものである。}\par  
詳しくはこのサンプルのソースを見てほしい。}
```

```
\eabstract{This document describes the usage of the style file  
for master's thesis of Division of Systems Science and Informatics.}\par  
Read the source file of this document to understand the exact usage.}
```

```
\jkeyword{\LaTeX, 修士論文, スタイルファイル}
```

```
\ekeyword{\LaTeX, master's thesis, style file}
```

```
\studentno{000000}
```

```
\committe{A 教授}{B 教授}{C 教授}{D 助教授}{}
```

```
\writtenyear{2006}
```

```
\writtenmonth{12}
```

```
\writtenday{24}
```

順番に説明していこう。

表 2.1: プリアンプルのコマンド一覧

コマンド	意味
<code>\thesistype</code>	修士論文か博士論文か
<code>\title</code>	論文日本語タイトル
<code>\etitle</code>	論文英語タイトル
<code>\author</code>	日本語著者名
<code>\eauthor</code>	英語著者名
<code>\jabstract</code>	日本語アブストラクト
<code>\eabstract</code>	英語アブストラクト
<code>\jkeyword</code>	日本語キーワード列
<code>\ekeyword</code>	英語キーワード列
<code>\studentno</code>	学生番号
<code>\committe</code>	主査・副査
<code>\writtenyear</code>	提出年
<code>\writtenmonth</code>	提出月
<code>\writtenday</code>	提出日

2.2.1 修士論文・博士論文の指定

`\thesistype{\masterthesis}`で修士論文を指定したことになる。`\thesistype{\doctoralthesis}`で博士論文にも使えるはずである。デフォルトで「修士(情報科学)」の修士論文である。たとえば、`\def\typeofdegree{工学}`とすれば「修士(工学)」になる。英語論文で「修士(工学)」の場合は、`\def\ettypeofdegree{Engineering}`とする。なお、博士の場合は、「博士(情報科学)」であろうが「博士(工学)」であろうが、北海道大学での英語名は“Doctor of Philosophy”に固定されている(学位記の裏面ではそうなっている)。したがって、英語博士論文の場合は`\def\ettypeofdegree`は指定しないほうがよい。

2.2.2 論文タイトル

論文のタイトルを`\title{...}`のように書く。また、英語の論文タイトルを`\etitle{...}`のように書く。英語タイトルは英語アブストラクトに使われる。英語論文では、`\title{...}`は無視される。

2.2.3 著者名

日本語の著者名を`\author{...}`のように、英語の著者名を`\eauthor{...}`のように書く。英語論文では、`\author{...}`は無視される。

2.2.4 概要

日本語アブストラクトと英語のアブストラクトを、`\jabstract{...}`, `\eabstract{...}` のように書く。また、日本語キーワードと英語キーワードを、`\jkeyword{...}`, `\ekeyword{...}` のように書く。英語論文では、`\jabstract{...}`と`\jkeyword{...}`は無視される。

2.2.5 学生番号

Paper ID を生成するのに必要。`\studentno{...}`のように学生番号を記述する。

2.2.6 主査・副査

主査・副査の先生の名前・肩書きを、`\committe{主査}{副査 1}{副査 2}{副査 3}{副査 4}`のように書く。副査が4人未満の場合は空欄にしておく。括弧の数は変わらない。英語論文では、先生の名前と肩書きも英語にすること。

2.2.7 論文を最終提出した日付

論文を最終提出した日付を、`\writtenyear{...}`, `\writtenmonth{...}`, `\writtenday{...}` のように書く。

2.2.8 その他

本文の偶数ページの左上には、論文のタイトルが書かれる。もし、論文タイトルが長すぎたり、`\title{ }` (英語論文の場合は`\etitle{ }`) で指定したものに改行が入っている場合は、プリアンプルに、

```
\def\titleshort{代わりの論文タイトル}
```

を入れる。これにより、本文の偶数ページの左上に代替文字列が表示される。

2.3 本文の始め

本原稿の、`\begin{document}`以降の頭の部分は、

```
\maketitle
\tableofcontents
\listoffigures
\listoftables
\cleardoublepage
\pagestyle{fancy}
\pagenumbering{arabic}
```

となっている。わからなければ、このまま書き写すのがよいだろう。もし、図が無ければ `\listoffigures` は不要である。また、表が無ければ `\listoftables` は不要である。

第3章 その他

`\chapter` には `{ }` の前に `[]` で、目次に載せる項目を変更させる方法がある。これにより、長い章のタイトルが入った目次を変更できる。

また、奇数ページ左上のヘッダ部分の文字列を変更するには、`\chaptermark{変更後文字列}` というコマンドを `\chapter{ }` コマンドの後に入れると良い。同様に、奇数ページ右上の文字列は、`\section{ }` の後に、`\sectionmark{ }` コマンドで変えることができる。

また、図は `graphics(graphicx)` パッケージを使うのがお勧めである。

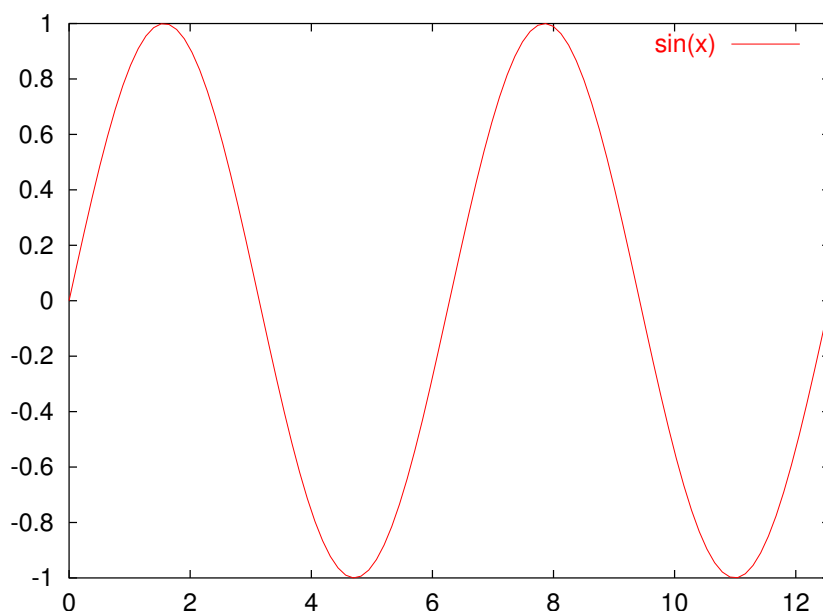


図 3.1: 図を取り込んだ例

もう一つのお勧めは、 $\mathcal{A}_{\mathcal{M}}\text{SIATEX}$ である。醜くて使いづらい `\eqnarray` を駆除できることだけでも意味がある。

きれいな PDF ファイルを作るためには、cm フォントなどを Type 1 のアウトラインフォントで PDF あるいは PS に埋め込むことが必須である。このためには、`dvipdfm` あるいは `dvipdfmx` を使うのが楽である。たとえば、`filename.dvi` があるとき

```
dvipdfm -p a4 filename.dvi
```

とすれば、`filename.pdf` ができる。一方、プレビューのためには、TrueType の cm フォントを使うのが徐々に主流になるであろう。PK フォントはいまや obsolete になりつつある。

謝辞

謝辞は、\acknowledgements の後を書く。番号は付かないが、Chapter 扱いである。

参考文献

- [1] 磯崎秀樹: \LaTeX 自由自在, サイエンス社 (1992)
- [2] 奥村晴彦: \LaTeX 美文書作成入門, 技術評論社 (1991)

付 録 A Appendix について

付録は、LaTeX ファイルの終わりに、

```
\appendix
\chapter{1 番目の付録のタイトル}
...
\chapter{2 番目の付録のタイトル}
...
```

のように書く。参考文献や謝辞の後に書くことに注意。